

第6回

李詒つれづれ………

尾池 和夫

【霧】

よなぐもり 黄砂

黄砂は古くからあり、中国の黄土高原には、厚さ二百から三百メートルの堆積層を造った。日本への黄砂は、タクラマカン沙漠、ゴビ沙漠、黄土高原から来る。九州での黄砂の堆積は数メートルにもなり、沖縄の赤土の多くも黄砂由来である。世界一のサハラ沙漠から飛来する砂は紅砂と呼んで区別する。黄砂も紅砂も、一から一三日で世界一周すると言われている。

日本の昔の歌に詠まれた春霞は、ほとんどの場合黄砂である。朧月夜も黄砂が原因で起こる。

黄砂は二月から五月に、とくに四月に多く、夏に最小となる。ライダー装置による黄砂観測を環境省が行い、黄砂飛来情報を午前五時ごろ発表する。この情報を得て、黄砂の句を詠みに出かけることができる。

霾という字も、火山灰と書いても「よな」と読む地域がある。黄砂も火山灰も、大地や海を豊かにするが、一方で災害も起こす。黄砂による災害では、中国で死者八五名という直接的被害が記録されたことがある。

火山灰も黄砂も元来はきれいなものである。火山灰や黄砂によって生み出された肥沃な土地の恩恵を受けて、私たちは大地の産物を味わって来た。中国から飛来する黄砂が、汚染物質を含まない本来の黄砂に早く戻ってほしいと願う。